令和７年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　槻田　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、６年生を対象として、令和７年４月１７日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（４月１８日から４月３０日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）
①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　児童質問調査

児童質問調査
○　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

３．教科に関する調査結果の概要

⑴　全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

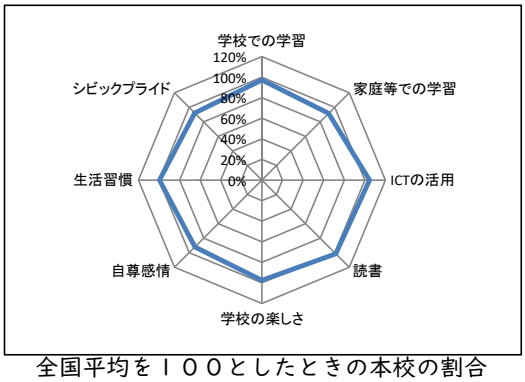
⑵　本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「話すこと・聞くこと」に関する問題が全国平均を上回っていた。 「書くこと」に関する問題が全国平均を大きく下回っていた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができる（話すこと・聞くこと）	
	努力が必要な問題	書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができるかどうかをみる（書くこと）	

算数	全体的な傾向や特徴など	「数と計算」に関する問題が全国平均を大きく下回っていた。 「選択式」に関する問題が全国平均を大きく下回っていた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる（図形）	
	努力が必要な問題	簡単な二次元の陽から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかをみる（データの活用）	

理科	全体的な傾向や特徴など	「エネルギー」に関する問題が全国平均を大きく下回っていた。 「記述式」に関する問題が全国平均を大きく下回っていた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる（粒子）	
	努力が必要な問題	電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる（エネルギー）	

４．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を１００としたときの本校の割合

質問調査の結果分析

・「友達関係に満足しているか」の問いに対して約90%の児童が肯定的に回答している。
・「読書は好きですか」との問いに対して約８０%の児童が肯定的に回答している。
・主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びが、児童生徒の自己有用感等に影響を与えている可能性があるため、今後も学校全体で授業改善を進め、児童が「わかった」「おもしろい」と思える授業にすることが必要である。
・「学校の授業時間以外に１時間以上勉強している」と回答した児童の割合が低かった。

５．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

計算力を高めるために、朝学習の時間を活用して復習を行っている。どの教科でも、「自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組む」ことができるように、ICTを活用しながら、「個別最適な学び」「協働的な学び」の授業づくりを進める。また、意欲的に取り組むことができるように、日常生活に即した課題を設定するなどの工夫をする。

②　家庭生活習慣等に関する取組

学校の授業時間以外の学習(家庭等での学習を含む)が定着するように、計画的に家庭学習に取り組ませ、見直しまで実施していく。AIドリルアプリの活用を進め、主体的な学習習慣の形成に向けた家庭と連携した取組を進める。